



学校給食運営審議会への諮問について

標題のことについて、今治市執行機関の附属機関設置条例第 2 条第 2 項の規定に基づき、今治市学校給食運営審議会に諮問する。

令和 5 年 9 月 29 日 提出

今治市教育委員会  
教育長 小澤 和樹

(理由)

学校給食費の見直し

(案)

今教給第 号

令和5年 月 日

今治市学校給食運営審議会 様

今治市教育委員会

教育長 小澤 和樹

今治市学校給食費の見直しについて（諮問）

このことについて、今治市執行機関の附属機関設置条例第2条第2項の規定に基づき、貴審議会の意見を求めます。

記

今治市の学校給食は、全国に先駆け学校給食に有機野菜を取り入れ、地元産減農薬米や地元産小麦パンなど地産地消の推進を図り、子どもたちが将来までおいしいと誇れる「日本一おいしい給食」の提供に努めているところです。

さて、今治市の学校給食費は、平成26年4月に改定して以降、9年間値上げをせず据え置いてまいりました。この間、物価高騰により学校給食で使用する食材価格が上昇し、特に近年、パンや牛乳の価格上昇が続いており、副食分の食材費が圧迫されています。

これまで、不足する食材費については食材選定や献立の工夫を行い、食材費の節減を図りつつ対応してまいりましたが、長引くロシア・ウクライナ情勢や急速に進んだ円安等に起因する物価高騰は更なる長期化が想定され、これまでの対応では栄養バランスや献立水準の維持が非常に困難になっています。

このような状況を踏まえ、今後も地産地消を推進する今治らしい給食の充実を図り、質や量、栄養バランスを確保した学校給食を継続して提供できるよう、適正な学校給食費について諮問いたします。

# 学校給食費の見直しについて(給食費の現状)

## ■現在の学校給食費

(単位:円)

調理場名	対象校	H26.4.1	小学校	中学校
学校給食センター	日吉中、近見中、立花中、北郷中			
清水調理場	清水小、富田小			
夢づくり調理場	乃万小、日高小、南中、西中			
桜井調理場	桜井小、桜井中、今治東中			
鳥生小学校調理場	鳥生小			
国分小学校調理場	国分小		220	250
立花小学校調理場	立花小			
常盤小学校調理場	常盤小			
波止浜小学校調理場	波止浜小			
近見小学校調理場	近見小			
別宮小学校調理場	別宮小	+10		
吹揚小学校調理場	吹揚小			
朝倉調理場	朝倉小、朝倉中		225	250
玉川調理場	鴨部小、九和小、玉川中		235	255
波方小学校調理場	波方小		230	—
大西調理場	大西小、大西中		230	260
菊間調理場	菊間小、亀岡小、菊間中		230	250
大島調理場	吉海小、宮窪小、大島中		235	265
伯方調理場	伯方小、伯方中、今治西高伯方分校		230	260
大三島調理場	大三島小、上浦小、大三島中、今治北高校 大三島分校		230	250
関前小中学校調理場	岡村小・関前中(体操)		255	275

## ■近隣市の学校給食費

市名	小学校	中学校	直近改定日
四国中央市	280円	320円	R5.4.1
新居浜市	260円	300円	H31.4.1
西条市	280円	330円	R5.4.1
松山市	250円	300円	R2.4.1

## 1 見直しの理由

- (1) 物価が上昇していること。(現時点では市が国の交付金を使って支援「3.市の支援のとおり」)
- (2) 給食は、食育という面があり、児童生徒には多種多様な食材を味わってほしいこと。
- (3) 児童生徒の成長に必要な栄養価を維持していく必要があること。
- (4) 日本一おいしい給食事業や地産地消の推進など、安心安全で栄養バランスのとれた魅力ある給食の提供を目指していること。

## 2 現状

- (1) 合併時において、学校給食費の統一は行わず、地産地消を推進し、地域の特色ある献立を継続することとした。
- (2) 合併以前から給食費の見直しを行ってこなかったが、平成26年4月から消費税の増税(5%→8%)に伴い給食費の値上げ(10円)を実施し、現在まで9年間据え置いている。
- (3) こども家庭庁において学校給食費の無償化の実現に向けて、全国ベースでの実態調査が行われ、その上で具体的方策が検討されることが示されている。
- (4) 昨年度の学校給食運営審議会において、「物価高騰により現在の給食が維持できなくなること懸念している」、「地産地消を推進するため値上げは仕方ないが説明をしっかりとりたい」との意見があった。
- (5) 今後も、食料品等の値上げが予定されており、長期化する物価高騰が想定される中において、現状の給食の質と量を維持するためには、学校給食費の見直しが必要となっている。

## 3 市の支援

コロナ禍や物価高騰が家計を直撃する中において、本市の地産地消の取り組みを継続し、「安心して子育てできる環境づくり」を推進するため、給食費の値上げを行うことなく、昨年度から物価高騰による給食費の不足分を国の交付金を活用して公費で補っている。

〈学校給食材料費高騰対応事業費補助金〉

○R4年度決算額 30,727千円

R4年4月～12月(補助額11円/食)、R5年1月～3月(補助額25円/食)

○R5年度予算額 71,200千円

R5年4月～9月(24円/食)、R5年10月～R6年3月(39円/食)※9月補正要求

# 学校給食費の見直しについて(物価上昇の現状)

小麦粉価格が上昇  
45円(R3)⇒55円

デザートは、既製品から手作りへ

乳牛の飼料価格上昇  
55円(R3)⇒65円



主菜は、鶏肉をモモ肉から単価の安いムネ肉に切替  
揚げ物は、献立の回数や順番を工夫

## ■同一献立1食あたりの単価比較

令和3年6月の献立を令和5年6月の食材単価で調理した場合の1食あたりの単価を比較したところ、下記のとおり上昇している。

献立	小学校			中学校		
	R3	R5	比較	R3	R5	比較
ごはん、牛乳、けんちん汁、魚のねぎマヨ焼き、スタミナサラダ	211円	253円	42円	256円	307円	51円
コッペパン、牛乳、鯛のチャウダー、じゃこのりコロツケ、ひじきのレモン酢和え	216円	286円	70円	251円	336円	85円
ごはん、牛乳、豚肉と厚揚げの炒め煮、白いんげん豆のキッシュ、なすの和風サラダ	210円	229円	19円	255円	276円	21円
コッペパン、牛乳、ビーンズスープ、たまごグラタン、骨太サラダ	220円	252円	32円	255円	293円	38円

## ■給食費改定スケジュール(案)

令和5年9月	教育委員会定例会(学校給食運営審議会への諮問について)
令和5年10月	第1回学校給食運営審議会(給食費改定について諮問)
令和5年10月	21調理場の学校給食運営委員会(給食費の見直しについて)
令和5年10月	保護者への意見募集(給食費の見直しについて)
令和5年11月	第2回学校給食運営審議会(給食費改定額案について)
令和6年1月	第3回学校給食運営審議会(答申について)
令和6年2月	教育委員会定例会(学校給食運営審議会の答申について)
令和6年2月	教育厚生委員協議会(学校給食運営審議会の審議結果について)
令和6年2月	21調理場の学校給食運営委員会(給食費改定の審議結果について)
令和6年3月	保護者への案内(給食費の見直し)
令和6年4月	給食費の見直し予定

## ■消費者物価指数(愛媛・食品)の推移

R2=100

物価指数	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
年平均	91.9	94.7	96.0	96.9	97.9	97.9	100	100.2	104.3
年度平均	92.7	95.1	96.4	97.4	97.5	98.5	100.1	100.7	106.3

※H26年度からR4年度までの消費者物価指数(愛媛・食品)13.6上昇

## 令和 5 年度 全国学力・学習状況調査結果の概要についてお知らせします

### — 今治市の児童生徒の学習・生活の状況 —

今治市教育委員会

小学校 6 年生、中学校 3 年生を対象に、令和 5 年 4 月 18 日に実施した今治市の調査結果の概要をまとめました。ここでは、小中学校別に各教科の成果や課題について、観点別平均正答率のレーダーチャートや特徴が見られた問題を掲載し、改善の方向性と具体的な実践事例を示しています。また、児童・生徒質問紙調査から見られた良好な結果と課題の考察、及び今後の方向性について示しています。

各学校は、本資料を参考にして、それぞれの実態に応じて特色のある取組を実施していくとともに、児童生徒の学力向上に向けて、工夫・改善に努めてまいります。

今治市教育委員会としては、今回得られた調査結果で良好であった「教師と児童生徒との信頼関係」や「育まれた自尊心や自己肯定感」を生かしながら、児童生徒が目標をもって主体的に学習に取り組む態度を育てていくことが何より大切であると考えております。

今後も引き続き、学校の組織力を高め、教職員の資質・能力の向上を図るとともに、教師と児童生徒との信頼関係を構築しながら、児童生徒のより良い学びにつながるよう支援してまいります。

## 【報告】

### 令和5年度全国学力・学習状況調査結果について

令和5年度全国学力・学習状況調査結果の概要について教育委員会のホームページを利用して以下のとおり公表いたしたい。

#### 1 調査の概要【資料ア】

調査の目的、実施日、対象学年、参加校・児童生徒数、調査内容

#### 2 教科に関する調査結果及び資料の内容【資料イ】

① 教科に関する調査結果

② 各教科の設問ごとの状況（レーダーチャート）や特徴が見られた問題

③ 質問紙調査結果から分かる児童生徒の学習意欲、学習方法、家庭生活等

#### 3 調査結果の概要及び特徴【資料ウ】

① 小中学校各教科別結果及び生活調査結果の特徴（資料ウ - ①）

② 小中学校各教科別平均正答率（レーダーチャート）の状況（資料ウ - ②）

③ 各教科の設問ごとの特徴が見られる問題（資料ウ - ③）

④ 生活質問紙における特徴が見られる設問（資料ウ - ④）

## 令和5年度全国学力・学習状況調査 今治市立小中学校の調査結果

## 調査の概要

## ○ 調査の目的（文部科学省「全国学力・学習状況調査に関する実施要領」より）

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## ○ 調査実施日

令和5年4月18日（火曜日）

## ○ 調査の対象学年

小学校6年生、中学校3年生

## ○ 本市の参加校、参加児童生徒数

小学校 26校 1,200人  
中学校 14校 1,039人 計 2,239人

## ○ 調査の内容

- 教科に関する調査（英語「話すこと」はオンラインによる解答）
  - 小学校（国語・算数）
  - 中学校（国語・数学・英語）
- 学習意欲や学習方法、学習環境等に関する質問紙調査

※ 「市町別レーダーチャート及び分析」は、愛媛県教育委員会ホームページに掲載されています。



## 調査結果

### ○ 教科に関する調査結果

下表は本市の公立小中学校全体の平均正答率と全国及び愛媛県の平均正答率を比較したものです。小学校は2教科とも全国・県の平均正答率を下回っています。中学校は数学で全国・県の平均正答率を上回っています。国語は、全国より下回ったものの県と同じ結果でした。英語は、全国より下回ったものの、県より上回りました。

教科に関する調査結果

校種 学年	調査 区分	問題数	本市の平均 正答率 (%)	県の平均 正答率 (%)	全国の平均 正答率 (%)
小学校 6年生	国語	14	64.0	67.0	67.2
	算数	16	60.0	62.0	62.5
中学校 3年生	国語	15	69.0	69.0	69.8
	数学	15	52.0	50.0	51.0
	英語	17	44.0	43.0	45.6

### ○ 各教科の設問ごとの状況や特徴が見られた問題について (次のPDFファイルはダウンロードしてご覧ください。)

- ① 今治市の調査結果の特徴 (PDF : 83KB)
- ①-1 小学校・調査結果 (国語) (PDF : 83KB)
- ①-2 小学校・調査結果 (算数) (PDF : 77KB)
- ①-3 中学校・調査結果 (国語) (PDF : 82KB)
- ①-4 中学校・調査結果 (数学) (PDF : 70KB)
- ①-5 中学校・調査結果 (英語) (PDF : 71KB)
  
- ②-1 小学校・調査結果の特徴 (国語) (PDF : 75KB)
- ②-2 小学校・調査結果の特徴 (算数) (PDF : 100KB)
- ②-3 中学校・調査結果の特徴 (国語) (PDF : 71KB)
- ②-4 中学校・調査結果の特徴 (数学) (PDF : 108KB)
- ②-5 中学校・調査結果の特徴 (英語) (PDF : 87KB)

### ○ 学習意欲や学習方法、学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活等に関する本市のおおよその状況を把握することができます。(次のPDFファイルはダウンロードしてご覧ください。)

- ③-1 小学校・質問紙調査結果概要 (PDF : 143KB)
- ③-2 中学校・質問紙調査結果概要 (PDF : 140KB)

## 令和5年度全国学力・学習状況調査 今治市の調査結果の特徴

## 1 平均正答率等(県の平均正答率と比較して)について

【小学校】 国語では▼3.0%、算数では▼2.0%下回りました。

【中学校】 数学は△2.0%、英語は△1.0%上回り、国語は同じ結果でした。

## 2 教科別について ○成果 ▼課題

## 【小学校】

(国語) ○ 「読むこと」目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約する問題

▼ 「言葉の特徴や使い方に関する問題」

漢字を文の中で正しく使うこと、日常よく使われる敬語の問題

→ 漢字の書き取りや語彙を豊かにする指導が必要であると考えます。

(算数) ○ 「数と計算」領域の「知識・技能」

加法と乗法の混合した整数の計算や分配法則を使った計算の問題

▼ 「変化と関係」百分率で表された割合についての問題

→ 基準量と比較量の関係を正しく捉え、割合についての理解を深める授業改善に取り組んでいきたいと考えています。

## 【中学校】

(国語) ○ 「話すこと・聞くこと」

インタビュー前に準備したメモについて説明したものとして、適切なものを選択する問題

▼ 「読むこと」

二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する問題

→ 読書の意義を考えさせたり、生徒が主体的に文章を読むことができるような授業改善に取り組みたいと考えています。

(数学) ○ 「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点、特に「数と式」(自然数の意味理解の問題)

▼ 記述式の問題

→ 習得した用語を論理的かつ的確に説明する場面を授業等においてより多く確保していききたいと考えています。

(英語) ○ 「知識・技能」「読むこと」

英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する問題

▼ 「聞くこと」情報を正確に聞き取る問題

→ ALTを活用するなどして、生きた英語に触れる機会を大切にしたい授業づくりが大切であると考えています。

## 3 児童・生徒質問紙について ○成果 ▼課題

○ 「自分にはよいところがある」と答えた割合が、小中学校ともに全国・県平均正答率を上回っています。→ 自尊心や自己肯定感が育まれていると考えられます。

○ 「将来の夢や目標をもっている」と答えた割合が、小中学校ともに全国・県平均正答率を上回っています。→ 自分の将来を見通す力や自立心が育っており、今後のキャリア教育につながっていくものと考えます。

▼ 「家で自分で計画を立てて勉強している」と答えた割合は、小中学校ともに全国・県平均正答率を下回っています。→ 家庭との連携を図り、学習習慣の確立に努めます。

▼ 「平日の読書は30分以上である」と答えた割合が、令和3年度から徐々に低下しています。

→ 朝の時間や補充の時間等を活用し、読書の機会を積極的に設けるよう、学校に働き掛けていきたいと考えています。

今後も、教師と児童生徒との信頼関係、育まれた自尊心や自己肯定感を生かしながら、児童生徒が目標をもって主体的に学習に取り組む態度を育んでいきたいと考えています。

【小学校国語】

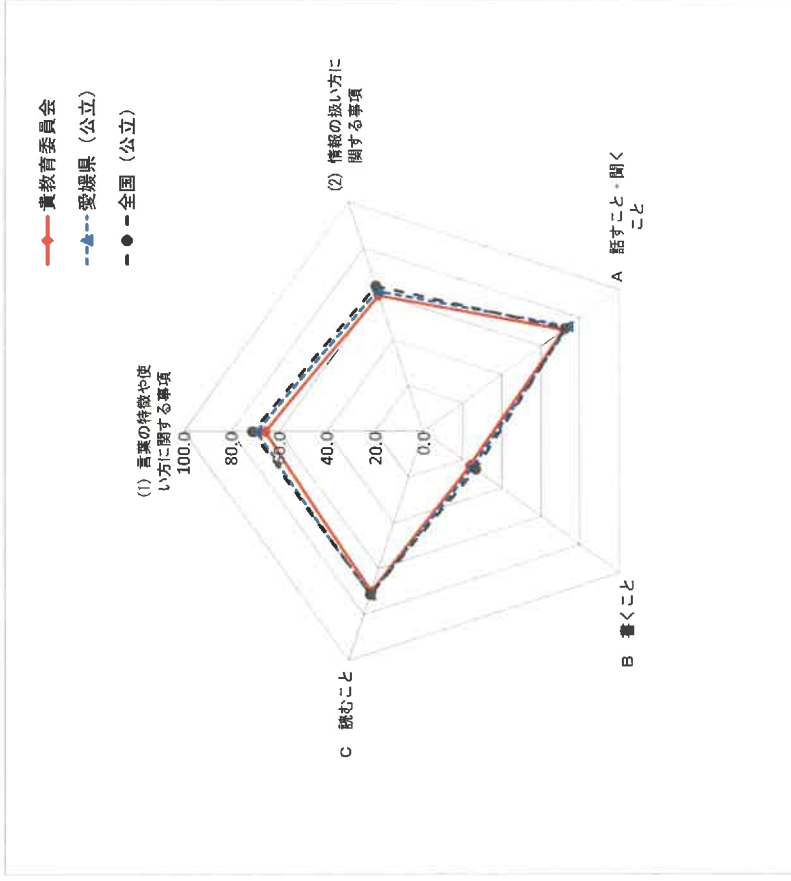
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象児童数	今治市教育委員会	愛媛県（公立）	全国（公立）
	1,200	10,697	964,177

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
			貴教育委員会	愛媛県（公立）	全国（公立）
<b>全体</b>					
学習指導要領の内容	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	5	66.0	69.7	71.2
	(2) 情報の扱い方に關する事項	2	59.3	61.2	63.4
	(3) 我が国の言語文化に關する事項	0			
知識及び技能	A 話すこと・聞くこと	3	71.6	73.9	72.6
	B 書くこと	1	23.8	25.1	26.7
	C 読むこと	3	69.9	71.4	71.2
評価の観点	知識・技能	7	64.1	67.2	68.9
	思考・判断・表現	7	64.0	65.9	65.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	9	70.6	72.5	73.6
	短答式	2	56.0	60.7	62.7
	記述式	3	49.8	52.5	51.1

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



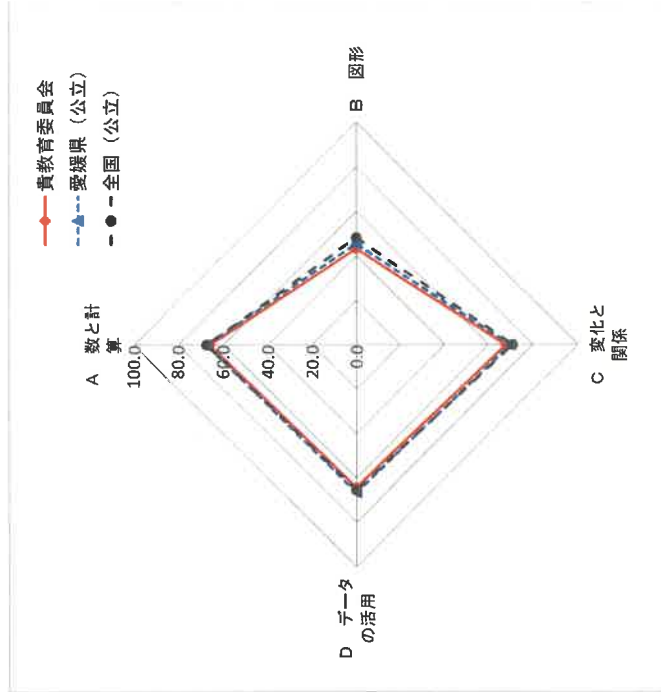
【小学校算数】

集計結果

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

対象児童数	今治市教育委員会	愛媛県（公立）	全国（公立）
	1,200	10,700	964,350

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
			貴教育委員会	愛媛県（公立）	全国（公立）
	全体	16	60	62	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	66.0	67.5	67.3
	B 図形	4	43.3	45.5	48.2
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	67.9	69.9	70.9
	D データの活用	3	64.1	66.5	65.5
評価の観点	知識・技能	9	64.4	66.4	67.2
	思考・判断・表現	7	54.4	56.1	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	52.7	55.2	57.7
	短答式	7	72.9	74.3	74.7
	記述式	4	46.6	48.5	47.3



※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。そのため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

## 【中学校国語】

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

## 集計結果

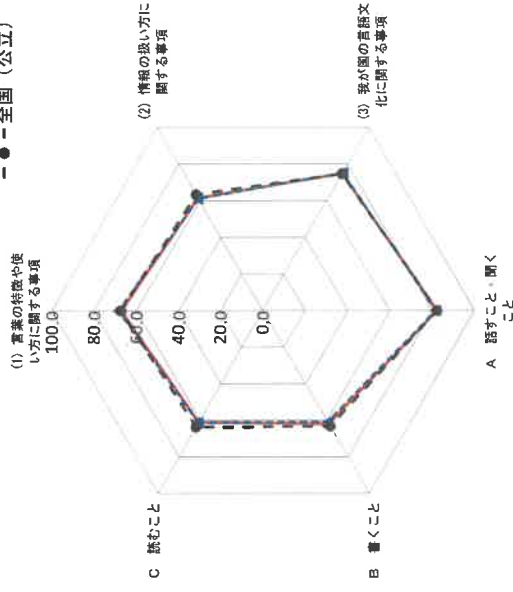
## ＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞

対象生徒数	今治市教育委員会	愛媛県（公立）	全国（公立）
	1,038	9,894	892,738

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）	
			貴教育委員会	全国（公立）
	全体	15	69	69.8
学習指導要領の内容	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	67.0	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項	2	61.6	61.2
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	75.0	75.3
	A 話すこと・聞くこと	3	82.3	81.6
	B 書くこと	2	61.9	60.9
	C 読むこと	4	61.0	61.3
評価の観点	知識・技能	7	68.9	69.3
	思考・判断・表現	9	68.3	68.0
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	7	71.9	71.6
	短答式	4	65.0	65.9
	記述式	4	66.8	66.2

※ 「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれ分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

—●— 貴教育委員会  
-▲- 愛媛県（公立）  
-●- 全国（公立）

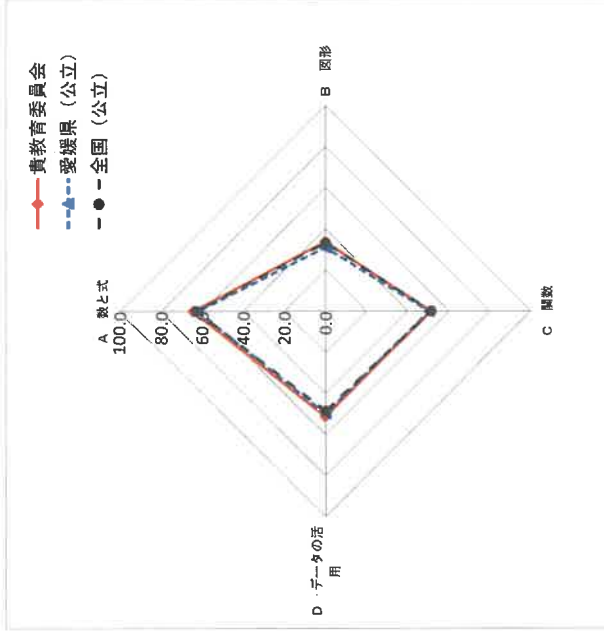


## 【中学校数学】

## 集計結果

対象生徒数	今治市教育委員会	愛媛県（公立）	全国（公立）
	1,039	9,893	893,114

## ＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



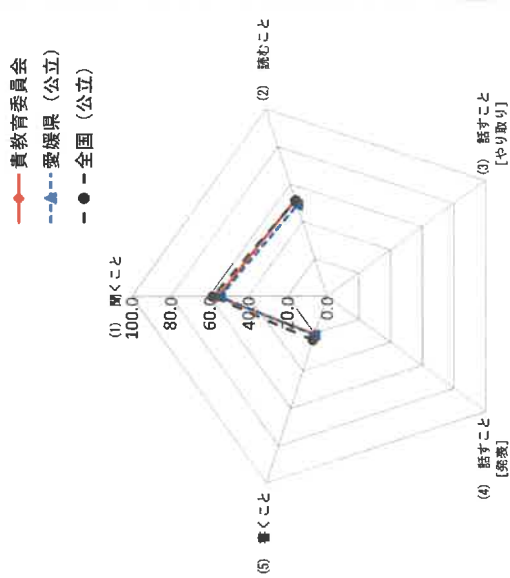
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）	
			貴教育委員会	愛媛県（公立）
<b>全体</b>				
学習指導要領の領域	A 数と式	5	64.5	62.3
	B 図形	3	33.8	31.0
	C 関数	4	51.1	50.2
	D データの活用	3	51.1	49.9
評価の観点	知識・技能	10	57.8	55.3
	思考・判断・表現	5	40.7	40.4
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	4	48.9	45.2
	短答式	6	63.7	62.0
	記述式	5	40.7	40.4

## 【中学校英語】

## 集計結果

## ＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	愛媛県(公立)	全国(公立)
対象生徒数			1,039	9,894	893,528
今治市教育委員会			44	43	
全体		17			45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	55.8	54.6	58.4
	(2) 読むこと	6	51.7	48.9	51.2
	(3) 話すこと [やり取り]	0			
	(4) 話すこと [発表]	0			
	(5) 書くこと	5	20.3	20.7	23.4
評価の観点	知識・技能	9	50.6	48.5	51.5
	思考・判断・表現	8	36.4	36.0	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	53.7	51.8	54.8
	短答式	3	25.5	26.8	30.1
	記述式	2	12.5	11.5	13.5



## 【小学校 国語】

## 全国学力・学習状況調査 今治市の各教科調査結果の特徴

## 1 平均正答率等について

本市の小学校国語の平均正答率は64%で、全国の平均正答率と比べ▼3.2%、県の平均正答率と比べ▼3%下回りました。「読むこと」領域の目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する問題の平均正答率は91.3%で、全国の平均正答率と比べ△1.3%、県の平均正答率と比べ△1.2%上回りました。また、「知識及び技能」における「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率が66.0%（全国71.2%、県69.7%）、「思考力、判断力、表現力等」における「書くこと」の平均正答率が23.8%（全国26.7%、県25.1%）と低くなっています。

## 2 特徴が見られた問題

## ①-三(1)

問題：(1) 一部ア、ウを漢字でていねいに書きましょう。

雑草取りを続けたのですが、アいがい に雑草が生えてきて、とてもこまりました。

ウ きかん は7月1日から15日までです。

正答：ア 意外           ウ 期間

本市の平均正答率は、アの問題が(50%)、全国の平均正答率(52.8%) 県の平均正答率(54.6%)で、ウの問題が(62%)、全国の平均正答率(72.6%) 県の平均正答率(66.8%)となり、全国・県を下回りました。この結果から、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題があると考えられます。

## ③-三

問題：谷さんは学習をふり返り、インタビューをするときの敬語の使い方について、ノートにまとめています。次の【谷さんのノートの一部】のアとイに入る内容の組み合わせとして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【谷さんのノートの一部】

聞きのがしたことを相手に確かめるとき  
○○さんが ア ことを、もう一度 イ いいですか。

選択肢：	1	ア おっしゃった	イ うかがって
	2	ア 申した	イ お聞きになって
	3	ア おっしゃった	イ お聞きになって
	4	ア 申した	イ うかがって

正答： 1

本市の平均正答率は(47.5%)、全国の平均正答率(57.6%) 県の平均正答率(57%)で、全国・県を大きく下回りました。この結果から、日常よく使われる敬語の理解に課題があると考えられます。

## 3 これからの学習に当たって

漢字を正確に覚えること、更に文の中で漢字を正しく使う学習を取り入れていく必要があります。そのためには、タブレットドリルを効果的に活用するだけでなく、実際に書く活動を通して、文脈から想像して適切な漢字を使う指導をしていくことが考えられます。

また、日常生活の中で敬語を使う機会を意図的に設けたり、敬語を正しく使う学習を授業に取り入れられたりするなど、児童に、敬語に慣れ親しませることが重要です。そして、読書活動を推奨するなど、語彙を豊かにする指導を取り入れていく必要があります。



## 【小学校 算数】

### 全国学力・学習状況調査 今治市の各教科調査結果の特徴

#### 1 平均正答率等について

本市の小学校算数の平均正答率は60%で、全国の平均正答率と比べ▼2.5%、県の平均正答率と比べ▼2%下回っています。「数と計算」、「図形」、「変化と関係」、「データの活用」の4領域において全国の平均正答率を下回りまわりましたが、「数と計算」領域の「知識・技能」に関しては、3問中2問において全国の平均正答率を上回りました。

③ (3)

#### 2 特徴が見られた問題

③ (3) では、本市の平均正答率 (75.4%) が全国平均正答率 (72.4%) と比べ△3%上回り、加法と乗法の混同した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりして答えを求めることができる児童が多いと考えられます。しかし、④ (1) では、本市の平均正答率 (37.8%) が全国平均正答率 (46%) と比べて、▼8.2%下回り、百分率で表された割合を苦手とする児童が多いと考えられます。解答類型を分析すると、30%について、100人を基準量としたとき、それに対する比較量を捉えることができていない児童が多く見られました。これからの学習では、基準量を自ら決めて、それに対する比較量を捉えることができるようにすることが大切です。

② (4) では、本市の平均正答率 (16.0%) が全国平均正答率 (20.8%) と、全国平均正答率と比べて▼4.8%下回っています。ここでは、公式は覚えています、高さについての具体的な長さが示されていないため面積を求めることができないと判断している児童が多く見られました。これからの学習では、平行な二つの直線にはさまれた底辺の長さが等しい平行四辺形の面積を比較する方法を考えさせるなどし、底辺の長さが等しいとき、具体的な高さが分からなくても面積を比較することができることを実感を伴って判断できるようにすることが大切です。

(3) けんたさんは、下の①と②の計算について考えています。それぞれの計算の答えを書きましょう。

①  $(151+49) \times 3$   
②  $151 \times 3 + 49 \times 3$

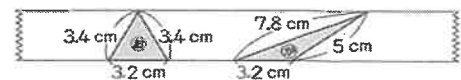
④ (1)

(1) 30%について考えます。割合が30%になるものを、下のアからオまでのの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 100人をもとにした0.3人の割合
- イ 100人をもとにした3人の割合
- ウ 100人をもとにした30人の割合
- エ 10人をもとにした3人の割合
- オ 30人をもとにした1人の割合

② (4)

(4) えいさんたちは、テープを直線で切って、下のような①と②の2つの三角形をつくります。



上の①と②の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ①の面積のほうが大きい。
- 2 ②の面積のほうが大きい。
- 3 ①と②の面積は等しい。
- 4 ①と②の面積は、このままでは比べることができない。

#### 3 これからの学習に当たって

「変化と関係」の領域の「知識・技能」の観点で全国平均正答率より▼8.2%下回っており、基準量と、比較量の関係を正しく捉え、割合について正しく理解ができるような指導が必要です。

「図形」の領域では、全国平均正答率を▼4.9%下回り、苦手な児童が多いと考えられます。図形の学習では、実際に図形を操作したり、ICT機器を活用して図形を捉えたりする学習等を通して、身の回りにあるものの形に目を向け、図形について豊かな感覚を身に付けていくことが大切です。また、図形の性質を活用し、具体的な場面での確に表現したり、処理したりできるような指導が必要であると考えます。

## 【中学校 国語】

### 全国学力・学習状況調査 今治市の各教科調査結果の特徴

#### 1 平均正答率等について

本市の中学校国語の平均正答率は69%で、全国の平均正答率と比べ▼0.8%下回りましたが、県の平均正答率と同じでした。「話すこと・聞くこと」の平均正答率が82.3%（全国82.2%、県81.6%）と、全国・県よりも上回っています。しかし、「読むこと」の平均正答率が61.0%（全国63.7%、県61.3%）と低くなっています。また、「知識・技能」の観点の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率は67.0%（全国67.5%、県68.3%）と低くなっているのが特徴です。

#### 2 特徴が見られた問題

よくできていたのは「インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する」という問題（全国△2.2、県△2.8）でした。この結果から、目的や場面に応じて質問する内容を検討することができていると考えられます。

課題とする、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の漢字を書く問題、「読むこと」領域の問題です。

##### ③ 一 文章中：「おし量って考える」

一線部のひらがなを漢字に直し、楷書で丁寧に書きなさい。

正答： 推（し）

本市の平均正答率は（41.4%）、全国（43.9%）、県（45.6%）で、全国・県を下回りました。この結果から、文脈に即して漢字を正しく書くことに課題があると考えられます。

##### ② 一 二

問題の概要：二つの文章を読み、二つの文章に共通している表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する問題。

- 選択肢：
- 1 主張に関わる言葉を引用することで、伝えたいことを印象付けている。
  - 2 敬体でていねいに述べることで、伝えたいことを身近に感じさせている。
  - 3 問いかけを用いることで、伝えたいことに興味をもたせている。
  - 4 冒頭の一文に結論を示すことで、伝えたいことを明確にしている。

正答： 1

本市の平均正答率は（58.0%）、全国の平均正答率（63.0%）県の平均正答率（59.8%）で全国を大きく下回りました。この結果から、観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える問題に課題があると考えられます。

#### 3 これからの学習に当たって

同音異義語を中心に文の中で漢字を正しく使う指導を繰り返し行うことが必要です。タブレットを効果的に活用し、ドリル問題に取り組むとともに、作文等の「書くこと」領域の学習を中心に適切な漢字を使う指導をしていくことが大切です。

「読むこと」領域に課題が見られるため、生徒が主体的に文章を読むことができるような授業改善に取り組んでいきたいと考えています。また、自分の考えを広げたり深めたりする読書活動を進めていく必要があると考えます。

全国学力・学習状況調査 今治市の各教科調査結果の特徴

1 平均正答率等について

本市の中学校数学の平均正答率は 52%で、全国の平均正答率と比べ△1%、県の平均正答率と比べ△2%上回りました。「数と式」「図形」「データの活用」の3領域で全国の平均正答率を上回りました。「関数」の領域については全国の平均正答率を▼0.1%下回りました。

問題数 15 問中、全問正解者の割合が本市 2.6%(全国 2.3%、県 2.2%)、14 問正解者の割合が、本市 4.8%(全国 4.5%、市 4.3%)、13 問正解者の割合が、本市 6.8%(全国 6.0%、県 5.6%)高いのも特徴です。また、選択式や短答式で回答する問題の本市の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っていますが、記述式で回答する問題は、全国の平均正答率を下回る結果となりました。

①

1 下のアからオまでの数の中から自然数をすべて選びなさい。  
ア -5 イ 0 ウ 3 エ 4.7 オ 9

2 特徴が見られた問題

①は、事象の特徴を的確に捉え、自然数の意味を理解する問題です。本市の平均正答率(56.9%)、全国の平均正答率(46.1%)、県の平均正答率(49.2%)となり、全国の平均正答率を大きく上回りました。自然数の意味を正しく理解している生徒が多いと考えられます。

⑦(2)

⑦(2)は、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題です。本市の平均正答率(29.3%)、全国の平均正答率(33.6%)県の平均正答率(32%)となり、全国、県の平均正答率を下回りました。解答類型を分析すると、本市の 28.6%の生徒が箱ひげ図からの読み取りはできていますが、事象を批判的に考察し判断することができていなかったと考えられます。これからの学習では、判断の根拠を箱の位置や四分位数などを用いて説明できるようにすることが大切です。

(2) 二人は、前ページの箱ひげ図を見て、話し合っています。

一花さん「4つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなっている傾向がありそうですね。」  
啓太さん「でも、1991年～2005年と2006年～2020年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるよ。遅くなっているといえるのかな。」  
一花さん「確かに箱ひげ図の右端と左端についてはそうだけど、箱に着目すれば、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあるといえるのではないかな。」

前ページの箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。

⑧(3)は、事象を解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかみる問題です。本市の平均正答率(42.3%)、全国の平均正答率(42.8%)、県の平均正答率(43.3%)となり、全国・県の平均正答率を下回りました。解答類型を分析すると、アを選んだ生徒はグラフを活用してグラフの交点から  $y$  の値を読み取ることを、イを選んだ生徒は連立方程式を活用して  $y$  の値を求めることの説明が不十分であったと考えられます。

⑧(3)

(3) 新緑大学が晴天大学に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何  $m$  の地点になるのかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いておよそ何  $m$  の地点になるのかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何  $m$  を求める必要はありません。

ア 晴天大学のグラフと新緑大学のグラフ

イ 晴天大学の式と新緑大学の式

このような課題の対策として、数学的な表現を用いて説明する問題を解く機会を多く設け、より適切に表現することができるよう、授業改善を行っていくことが大切です。

3 これからの学習に当たって

選択式、短答式の問題形式については全国・県の平均正答率を上回っていますが、記述式の問題は全国の平均正答率を下回っています。基礎的、基本的な計算技能は身に付いていますが、問題解決の方法について説明することを苦手としている生徒が多いと考えられます。これからは、用語や計算技能の習得だけでなく、日々の授業においても習得した用語や計算技能を活用して、論理的かつ的確に説明する場面をより多く確保する必要があると考えられます。

## 【中学校 英語】

### 全国学力・学習状況調査 今治市の各教科調査結果の特徴

#### 1 平均正答率等について

本市の中学校英語の平均正答率は44%で、全国の平均正答率と比べ▼1.6%下回り、県の平均正答率を比べ△1%上回りました。

学習指導要領の領域別に見ると、「読むこと」の領域で本市の平均正答率51.7%（全国51.2%、県48.9%）を上回り、「書くこと」の領域で本市の平均正答率20.3%（全国23.4%、県20.7%）下回っています。

評価の観点別に見ると、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の両観点共に、県の平均正答率を上回っているものの、全国の平均正答率は下回っています。

問題形式別に見ると、「選択式」および「記述式」問題では、ほとんど差異は見られなかったものの、「短答式」で全国及び県平均を下回り、「短答式」に課題があることが伺えます。

正答数分布グラフからは、17問中、正答数7問の割合は全国及び県の平均正答率とほぼ同じですが、11問前後の正答数は全国及び県の平均正答率より高く、それ以上の高得点割合は低いのが、本市の特徴です。

#### 2 特徴が見られた問題

問題別に見ると、よくできていたのは「図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する」という問題（全国△9.7%、県△12.2%）であり、「知識・技能」を問う「選択式」の問題でした。

課題が見られたのは、「1 (1) ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する」という問題（全国▼5.8、県▼2.3）であり、「知識・技能」を問う「選択式」の問題でした。また、問題形式別に見ると、「短答式」の正答率が低い傾向が見られます。

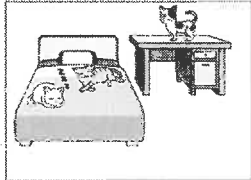
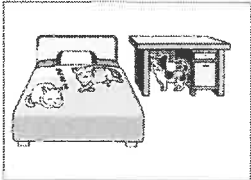
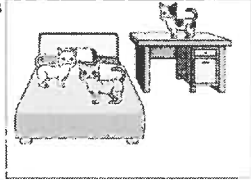
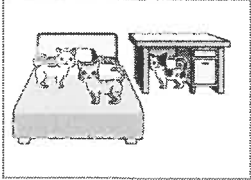
#### 3 これからの学習に当たって

上記「1 (1)」はリスニング問題であり、英語を聞く力に課題が見られます。ALTの有効活用はもとより、授業の中に対話的な学習を多く取り入れることで、英会話力の向上を図ることが必要であると考えます。また、1人1台端末の機能の中には、音声を聞くだけでなく、音声を録音する機能もあるため、ICT機器を効果的に活用し、課題克服につなげていくことについても同様です。

全体を通して、「短答式」の問題に課題が見られるため、普段の学校生活から、文章を書く力の育成を意識的に行う必要があると考えます。特に、端的に自分の言いたいことを説明する力や物事の骨子を見極める力の育成を図ることが大切であると考えます。

1 (放送問題)  
話される英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を、それぞれ1から4までの中から1つ選びなさい。

(1)

1		2	
3		4	

○ 全国と比較して、5.0ポイントより上回る設問

質問番号	質問事項	比較基準	今治市	全国	全国との差
(6)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	「当てはまる」と回答した児童の割合	66.7	60.9	5.8
(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	「当てはまる」と回答した児童の割合	38.4	33.4	5.0
(12)	学校に行くのは楽しいと思いますか	「当てはまる」と回答した児童の割合	56.0	49.8	6.2
(28)	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	「当てはまる」と回答した児童の割合	54.5	45.7	8.8

○ 全国と比較して、3.0ポイントより上回る設問

質問番号	質問事項	比較基準	今治市	全国	全国との差
(7)	将来の夢や目標を持っていますか	「当てはまる」と回答した児童の割合	64.7	60.8	3.9
(9)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	「当てはまる」と回答した児童の割合	86.1	82.6	3.5
(11)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	「当てはまる」と回答した児童の割合	79.5	75.3	4.2
(13)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	「当てはまる」と回答した児童の割合	36.6	32.0	4.6
(14)	友達関係に満足していますか	「当てはまる」と回答した児童の割合	66.8	63.2	3.6
(26)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	「当てはまる」と回答した児童の割合	36.3	33.2	3.1
(35)	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	「当てはまる」と回答した児童の割合	42.0	37.3	4.7
(39)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	「当てはまる」と回答した児童の割合	35.8	31.8	4.0
(43)	国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいますか	「当てはまる」と回答した児童の割合	44.5	40.9	3.6
(55)	英語の勉強は好きですか	「当てはまる」と回答した児童の割合	42.1	38.6	3.5
(57)	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	「当てはまる」と回答した児童の割合	32.1	28.9	3.2

○ 全国と比較して、3.0ポイントより下回る設問

質問番号	質問事項	比較基準	今治市	全国	全国との差
(23)	新聞を読んでいますか	「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と回答した児童の割合	8.1	12.6	-4.5

○ 全国と比較して、5.0ポイントより下回る設問

質問番号	質問事項	比較基準	今治市	全国	全国との差
(16)	家で自分で計画を立てて勉強していますか	「よくしている」と回答した児童の割合	22.9	28.7	-5.8
(20)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間勉強していますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	「30分以上」と回答した児童の割合	31.0	37.3	-6.3

○ 考察と今後の方向性について

設問番号	考察と今後の方向性
(13)	「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の問いに、「当てはまる」と答えた児童は、本市36.6% (全国32.0%、愛媛県30.5%) となっており、やや高い数値を示しています。今後、話し合い活動を積極的に取り入れ、児童同士が認め合う集団づくりを目指していきたいと考えています。また、相手の意見を尊重しながら自分の意見も述べていく指導を継続して行っていきたいと考えています。
(28)	「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」の問いに、「当てはまる」と答えた小学校児童は、本市54.5% (全国45.7%、愛媛県49.7%) と高い数値を示しています。小学校高学年で、外国語科となり、英語に慣れ親しむ機会が増えつつあります。また、昨年度から小学校5年生で先行実施されている本市独自の「今治モデル『ふるさとキャリア教育』」により、今治の良さを認識し郷土愛が育てられていると考えられます。今後は、日本や今治市の良さを発信できる表現力の育成を図っていきたいと考えています。
(39)	「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の問いに、「当てはまる」と答えた児童は、本市35.8% (全国31.8%、愛媛県31.2%) と高い数値を示しています。これまでの総合的な学習の時間での課題探求型学習の積み重ねの成果が現れていると考えます。今後は、今年度より全面実施となる今治市独自の事業「今治モデル『ふるさとキャリア教育』」を通して、児童が自ら学ぶ力を更に育成していきたいと考えています。
(16)	資料ウ-②で「自分で計画を立てて勉強していますか(学校の授業の予習や復習を含む)」の問いに、「よくしている」と答えた児童は、本市22.9% (全国28.7%、愛媛県28.7%) と低い数値を示しています。家庭学習の定着については、本市の課題の一つであり、小学校において「よくしている」と答えた児童の割合は、平成28年(21.5%)→平成29年(27.0%)→平成30年(27.7%)→令和元年(27.7%)→令和3年(27.8%)→令和4年(21.9%)と、ほぼ横ばい状態にあります。各学校でも、「家庭学習の手引き」を作成して児童、保護者に周知したり、「家庭学習チャレンジウイーク」や家庭学習予定表の記入などの試みを工夫したりしていますが、十分な定着には至っていません。今後、家庭の理解と協力を得ながら、家庭学習の定着を目指していく必要があると考えています。
(23)	「新聞を読んでいますか」の問いに、「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と答えた児童は、本市8.1% (全国12.6%、愛媛県10.1%) となっており、低い数値を示しています。今後は、新聞を読んで自分の考えをまとめる活動を授業や朝の活動の時間に取り入れるなど、新聞に触れる機会を意図的に設ける必要があると考えます。

○ 全国と比較して、5.0ポイントより上回る設問

質問番号	質問事項	比較基準	今治市	全国	全国との差
(11)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	77.8	71.7	6.1
(30)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	26.0	19.6	6.4
(32)	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	34.1	26.2	7.9
(47)	国語の勉強は好きですか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	28.8	23.6	5.2
(48)	国語の勉強は大切だと思いますか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	67.9	60.0	7.9
(50)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	60.5	52.3	8.2
(66)	数学の勉強は大切だと思いますか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	58.0	49.8	8.2
(58)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	45.7	38.8	6.9

○ 全国と比較して、3.0ポイントより上回る設問

質問番号	質問事項	比較基準	今治市	全国	全国との差
(4)	自分には、よいところがあると思いますか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	41.3	37.2	4.1
(7)	将来の夢や目標を持っていますか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	42.5	39.4	3.1
(13)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	35.7	32.2	3.5
(24)	読書は好きですか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	38.6	35.2	3.4
(46)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	48.1	43.8	4.3
(49)	国語の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	34.2	30.4	3.8

○ 全国と比較して、3.0ポイントより下回る設問

質問番号	質問事項	比較基準	今治市	全国	全国との差
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	「寝ている」と回答した生徒の割合	30.4	34.7	-4.3
(53)	国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていますか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	15.4	19.4	-4.1
(63)	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	11.2	15.7	-4.5
(64)	これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページなどを見る、オンラインで他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）	「当てはまる」と回答した生徒の割合	9.6	12.7	-3.1
(69)	1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	39.2	42.9	-3.7
(70)	1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	40.2	43.3	-3.1

○ 全国と比較して、5.0ポイントより下回る設問

質問番号	質問事項	比較基準	今治市	全国	全国との差
(34)	学校の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	「当てはまる」と回答した生徒の割合	50.3	58.7	-8.4

○ 考察と今後の方向性について

設問番号	考察と今後の方向性
(4)	「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに、「当てはまる」と答えた生徒は、本市41.3%（全国37.2%、愛媛県36.9%）となっており、やや高い数値を示しています。今後も日々の教育活動を通して、教師が、生徒の良い行いを認め賞賛したり、生徒同士が認め合う場を設けたりするなど、今治市の子どもの良さを更に伸ばしていきたいと考えています。
(32)	「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」の問いに、「当てはまる」と答えた生徒は、本市34.1%（全国26.2%、愛媛県31.3%）となっており、全教育活動で郷土愛を育む取組が行われている成果だと考えます。また、今年度より全面実施する本市独自の「今治モデル『ふるさとキャリア教育』」も積極的に進め、発達段階に応じたキャリア教育の充実を図っていきます。さらに、A・L・Tの活用も積極的に行い、生きた英語に触れる機会を多く設けていきたいと考えています。
(34)	「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の問いに「当てはまる」と答えた生徒は、本市50.3%（全国58.7%、愛媛県55.7%）と、かなり低い数値を示しています。この結果を受け止め、各中学校においては、ICT機器の効果的な活用を取り入れた授業改善に積極的に取り組み、子どもたちにICT機器の重要性を理解させ、更なる利用の促進を図っていく必要があると考えています。
(63)	「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか」の問いに、『当てはまる』と答えた生徒は、本市11.2%（全国15.7%、愛媛県12.3%）となっており、やや低い数値を示しています。今後は、英語の授業で生徒がA・L・Tと関わる機会を積極的に設け、ネイティブな英会話に親しむことのできる授業づくりをする必要があると考えています。
(2)	「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の問いに「寝ている」と答えた生徒は、本市30.4%（全国34.7%、愛媛県33.1%）となっており、やや低い数値を示しています。生徒の生活リズムを整えていくには、家庭との連携が必要であり、生徒一人一人が安定した家庭生活や学校生活を送ることができるよう、生活習慣の定着について家庭との連携の重要性を各校へ働き掛けていきます。